

## 日本とちょっと違うよ - 通訳者よもやま話 - Vol.12 スペイン語担当 Lili さん

私が住んでいたペルーの首都リマ市は、海に面しているため海産物が豊富です。まず前菜のおススメは「セビチェ」という魚や貝などを玉ねぎやレモン、ペルーの唐辛子と和えてマリネのよう



にいただく一品です。メイン料理なら、家庭でもよく食べる「ロモサルタード」、こちらは牛肉、玉ねぎ、トマト、ジャガイモの野菜炒めにご飯を添えていただく一品です。ご飯とジャガイモという炭水化物のコラボレーションに驚く人も少なくないかもしれませんが、とても美味しいんですよ。最後におススメのデザートは「アロスコンレチェ」、お米を牛乳、砂糖でおかゆ状にしてシナモンをかけていただく一品です。デザートにお米?!でもペルーでは、お米をたくさん食べますし、ジャガイモや豆類も力の源として大変好まれています。来日したペルーの方々にお聞きしても、食文化は日本に来て変わらせず、日本にある食材で工夫をして自国の食べ物を食べ続けることが多いようです。皆さんの近くにペルー料理のお店があれば、ぜひ試してみてくださいね。

もう一つ、ペルーと言えば世界遺産のマチュピチュ遺跡です。リマ市から飛行機で2時間ほど、ペルーに住む人でもめったに行くわけではありません。私は新婚旅行で訪れました。マチュピチュ遺跡に到着して見上げると、目の前に広い空と山々があり、そこに行かないと味わえない、「私たちも自然の一部だ〜」と感じたのを覚えています。その時はちょうどストライキにあたって、銃を持った警察がいたり恐い思いもしましたが、皆さんも機会があればぜひ一度足を運んでみてはいかがでしょうか。



### ～「少子化の現代に何ができるか」～

東和エンジニアリングでは、先日 NICU で勤務しておられる助産師さんを講師にお招きして、オンラインで「少子化の今」をテーマに講演していただきました。

お仕事柄、妊娠や出産に携わる中で、さまざまな問題を抱える赤ちゃんにも接しておられる講師の方は「妊娠は奇跡と思っている」、「誕生までも奇跡、生きているということが奇跡」と何度も繰り返しお話しされました。不妊治療や育児の大変さ、児童虐待などの話題にも触れながら、それでも子どもとは本来「いのち」であり、いのちを尊ぶことから、今を生きる私たちに何ができるかを考えさせられた研修でした。

それが「思いやり」であるのか「声掛け」であるのか、正解は一つではありません。まず自分にできることを考える、それがスタートになれば、と思いました。



### 今月のピックアップ

#### 「歯科検診」

6月4日は虫歯予防デー、皆さんは普段から歯科の定期検診を受けていますか？歯科検診と言って最初に思い出すのは、小学校の検診。毎年どこの学校でも新学期が始まるとさまざまな健診がありますが、その中でどうしても好きになれなかったのが歯科検診です。後で歯医者に行くように先生から紙を渡された時の絶望感！大人になっても忘れられません。

昨今は、幼児期からのフッ素塗布や歯磨きを励行する教育が功を奏して、以前ほど虫歯の子どもはいないと聞きます。むしろ大人の歯周病予防やクリーニング（審美歯科の分野）が多いのかもしれませんが、いずれにしても日本の歯医者さんは今やとてもキレイで、キューーンと言う大きな音が呼び覚ます恐怖心も、歯科衛生士さんの優しい笑顔で無事乗り越えられる、そんな風になってきているように思います。スペイン語の通訳者が、初めて日本で歯医者さんに行った時、あまりの豪華さにびっくりした、と言っていました。レントゲン撮影までクリニックでできるとは思わなかったそうです。

私たちのセンターに来る通訳依頼は親知らずの抜歯など、いわゆる小手術のケースが多いですね。通訳の時に要注意！なのが、「抜歯」と「抜糸」です。いきなり始まるオンライン通訳だからこそ、いつも気をつけるようにしています。

